



原田全修議員

問

● 町内の入学児童数の減少は著しい。教育環境をどう整えるのか  
 ● 出産ほう賞制度や子育て環境の改善で子供を増やす施策が重要ではないか

を私どもは抱いている。ことではないか。何としても生徒数を確保していかねばならない。高校に併設した中学校の形は青部バリエーションが完成する時点で焦点を当てた考え方は

**質問** 川根本町行政改革集中プランでは「減少を続ける小学校児童数に対応するため、より良い教育環境の整備の観点から、小学校の適正規模について平成18から22年度の間で調査・検討する。」としている。検討状況を伺う。

**町長** 5月1日現在の小学校児童数は342人、平成27年度は232人と6年間で110人の減少。中川根南部小学校は平成22年度から1学級が複式学級に、平成24年度には2学級となる可能性がある。南部小の保護者の皆様には状況説明に努めたい。また、第一小は平成25年度、中央小は平成27年度1

**質問** 22年度のところで南部小は複式学級に入っていく可能性が予測されているながら、行政改革プランでは議論されてこなかったのか。

**町長** 南部小がどうこうというよりも複式学級をどうとらえるかというところで、教育委員会の議論、有識者の会議等さまざまなことをしていくことが必要なことと考えている。

**質問** 南部小に対しての来年度については教員の加配など激変緩和ということを意識した説明をお願いしたい。中川根側の小学校の統合について



入学児童数の減少の著しい町内小学校

はどのようなお考えか。

**町長** 統合は行政のトップにあるものが誘導するような性格のものではなく、そこに住む住民が決め理解する方向で進むことが大事だと考えてきたので、複式学級にどう対応するかというテーマをもとに幅広い議論をして頂きたい。

**質問** 3月議会で、私は雇用創出の上からも「子ども農山漁村交流プロジェクト（農水省、園、幼稚園はどうあつたらいのか」ということを考えた議論をさせて頂き、方向が確認された段階で校舎の活用も重要な議論が望ましいと思う。

**町長** 先ず、学校のあり方として、川根本町の小学校、中学校

**質問** この地域の教育と3学期制が混在しているというものは川根高校が中心にあるという意識がまず必要であろう。これは当町の教育ビジョンとしても大事な

**町長** 青部バイパス完成は川根本町の人の心を結びつける大きな契機になると思う。それに向かつてさまざまな仕組みを考えていくのも重要であると考えている。

**質問** 現在、小中学校の学期制は、2学期制

答

○ 南部小学校は平成22年度から2年、3年が複式になることが想定される  
 ○ 「ここで子供を産み育てられる」ような政策に反映し、資金も投入していく